

# 北京近代科学図書館編日本語教科 書の作成過程の再検討

—戦前の中国大陸の日本語教育との関連を中心に—

文教大学言語文化研究科博士後期課程

賈 鵬飛 (カ ホウヒ)

# 本日の発表内容

- 北京近代科学図書館の日本語教育事業について
- 先行研究と本研究の目的
- 北京近代科学図書館編日本語教科書の作成背景
- 教科書作成における戦前の中国大陸の日本語教科書の影響
- まとめと今後の課題

# 北京近代科学図書館の 日本語教育事業について

---

## 日本語教育事業の概況について

- 「対支文化事業」の一環として、1936年12月に開館
- 日本語基礎講座（全11期）  
（1937. 11～1941）
- 師範科（全1期）  
（1938. 9～1939. 2）
- 日本語教科書の編集・発行
  - 『初級日文模範教科書』全3巻（巻1：1937. 10、巻2：1937. 11、巻3：1938. 1）
  - 『高級日文模範教科書』全3巻（巻1：1938. 3、巻2：1938. 5、巻3：1938. 10）
  - 『日文補充読本』全6巻  
（巻1：1937. 12、巻2：1938. 3、巻3：1938. 12、巻4：1939. 2、巻5：1939. 4、巻6：1939. 12）
  - 『日本語入門篇』（1939. 9発行）

# 北京近代科学図書館の日本語講座の規模

- 華北占領初期、北京近代科学図書館の日本語講座の規模が大きい。

表1 北京における日本側の日本語教育機関（1938年6月時点）

学校名	教員数	学生数	学校名	教員数	学生数
崇貞女学校	4	160	今川日語学校	3	61
佐藤日語研究所	3	35	自由学園 北京生活学校	8	20
北京同学会語学校 日語班	3	41	本願寺日語学校	1	80
久松日文学校	1	100	北京外国語学校	1	52
黎明語学会	12	280	北京近代科学図書館 東城日語学校	36	96
黎明語学会分校	4	90	北京近代科学図書館 北城日語学校		143
高野山日華語学校	8	120	北京近代科学図書館 北城日語学校		54
北京東光日語学院	1	92			
新冀日語専門学校	4	32			

(JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. B10070616400より筆者作成)

# 北京近代科学図書館編日本語教科書の使用状況

- 盧溝橋事件後、北京近代科学図書館編日本語教科書は広く使用された。

表2 北京近代科学図書館編教科書の使用先と発行部数（1942年7月末時点の調査）

書名			地方別使用先（使用先判別セル分ノミ）																他ニ各處ニ寄贈セル分	總計		
			北京	天津	保定	通縣	遵化	樂亭	唐山	濟南	威海衛	徐州	包頭	遷安	上海	太原	太谷	大同			日本	
日書 日文模範教科	初級	卷一	24,315	3,470	610	270	427	222	500	336	63	340	202	20		50	70			1,669	32,564	
		卷二	10,703	2,213	330	42	165	50		90	15	170	202	20	100	50					950	15,100
		卷三	8,896	1,178	51	15	35	50	82	200	52		2			50					534	11,145
	高級	卷一	4,847	802						80	13	80	2								1,336	7,160
		卷二	3,221	155						80	13	25	2								812	4,308
		卷三	2,076	53							13		2								658	2,802
日書 日文補充讀本		卷一	4,413	1,054	100		95			305								60		2,122	8,149	
		卷二	3,327	301	102					120										1,263	5,113	
		卷三	2,477	45	50					188										683	3,443	
		卷四	2,163	35	50					30										298	2,576	
		卷五	2,052	3	70															271	2,396	
		卷六	799	3	50															170	1,022	
		中國現代文讀本																	1,192	559	1,751	
		日本語入門篇	5,001																	230	3,231	
		日本名歌曲選卷1-卷3	179																	1,471	1,650	
		總計	72,469	9,312	1,413	327	722	322	582	1,429	169	615	412	40	100	150	70	60	1,192	13,026	102,410	

（出典：『北京近代科学図書館月報 書滲』第42号 2ページより）

# 先行研究と本研究の目的



# 北京近代科学図書館の日本語教育事業に関する先行研究

## • 先行研究

小黒浩司（1987a）小黒浩司（1987b）川上尚恵（2006）川上尚恵（2010）田中寛（2015）

## • 先行研究の要点のまとめ

- ① 北京近代科学図書館設立経緯や日本語教育事業の実態などを解明。
- ② 日本語教科書は読本的な色彩が強く、練習教材的な性格が見られない。内容的には日本文化及び日本精神を伝えるものが中心。
- ③ 日本語教科書の編纂においては、形式面にも内容面にも国定国語教科書からの影響がある。また、教科書に反映された教授観は中国人学習者に配慮したもので、中国人に対する日本語教育に関する知識と教授観を持った人物が編纂に関わっていたと指摘されている。



## 本研究の目的

⇒ 日本語教科書の作成に対する検討を中心に、北京近代科学図書館の日本語教育事業は戦前の中国大陸の日本語教育とどのような関連があるのかを考察する。

- ① 北京近代科学図書館編日本語教科書の作成背景  
—1930年代の中国大陸の日本語学習ブームとの関連
- ② 教科書の作成における戦前の中国大陸の日本語教科書の影響  
—張我軍編『日文與日語』雑誌と日本語教材との比較を中心に

# 北京近代科学図書館編日本語教科書の作成背景



# 北京近代科学図書館の日本語教育事業方針

- 日本語教育事業方針の制定の時点は盧溝橋事件以降？

本館が日語教育に従事するに至ったのも矢張直接には事変の勃発を契機としてであった。然し日本の図書館雑誌を収蔵し、且これによって日本文化の紹介に従事するのを使命として設立された本館は、この本来の使命を遂行するためにもこれに併行或は前提として日本語の教育をなすことを要請されざるをえない。

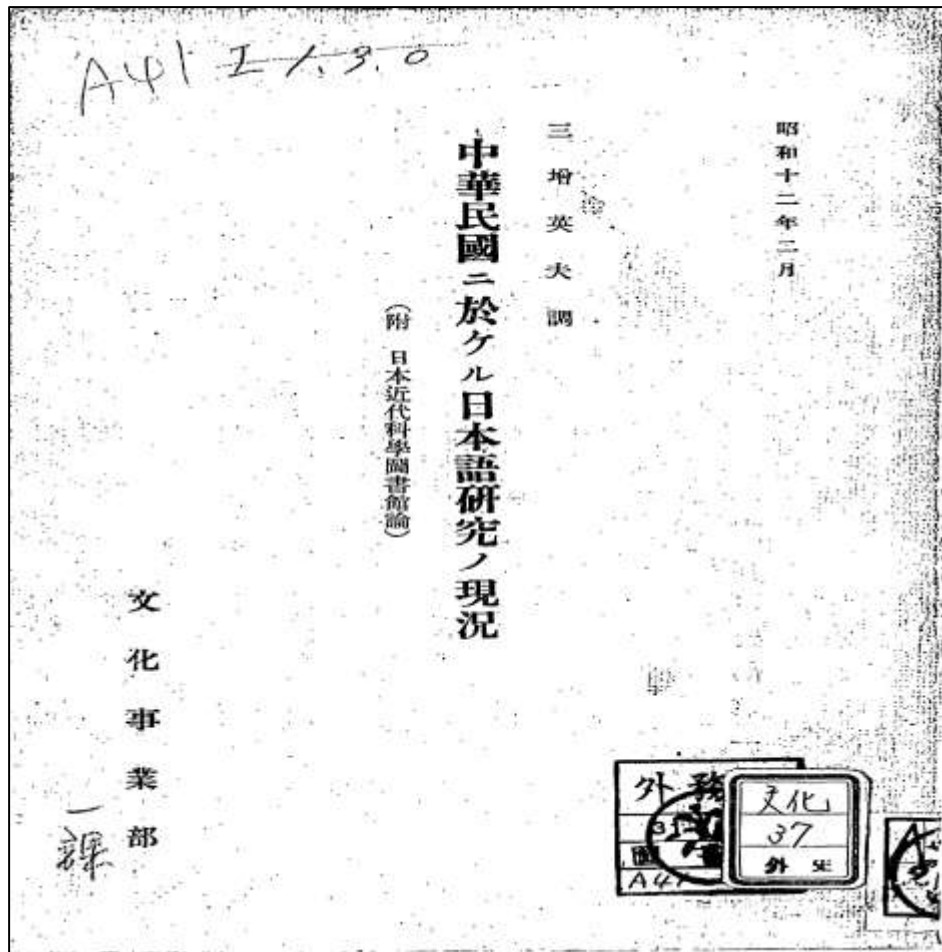
本館發行教科書類報告  
昭和十二年七月日支事變勃發と  
ともに日本語教育の普及並びに良  
教科書出版の必要を痛感した吾々  
は砲聲いまだ遠からぬ中から教科  
書編纂に著手した。當時は北京天  
津間すら汽車で二十時間近く要す  
る時であり日本乃至は滿洲國から  
教科書を運ぶことは到底出来なか  
つたのでとりあへず應急的のもの  
に着手した次第であつた。かくて

出典：『北京近代科学図書館概況』（1939年）22ページより

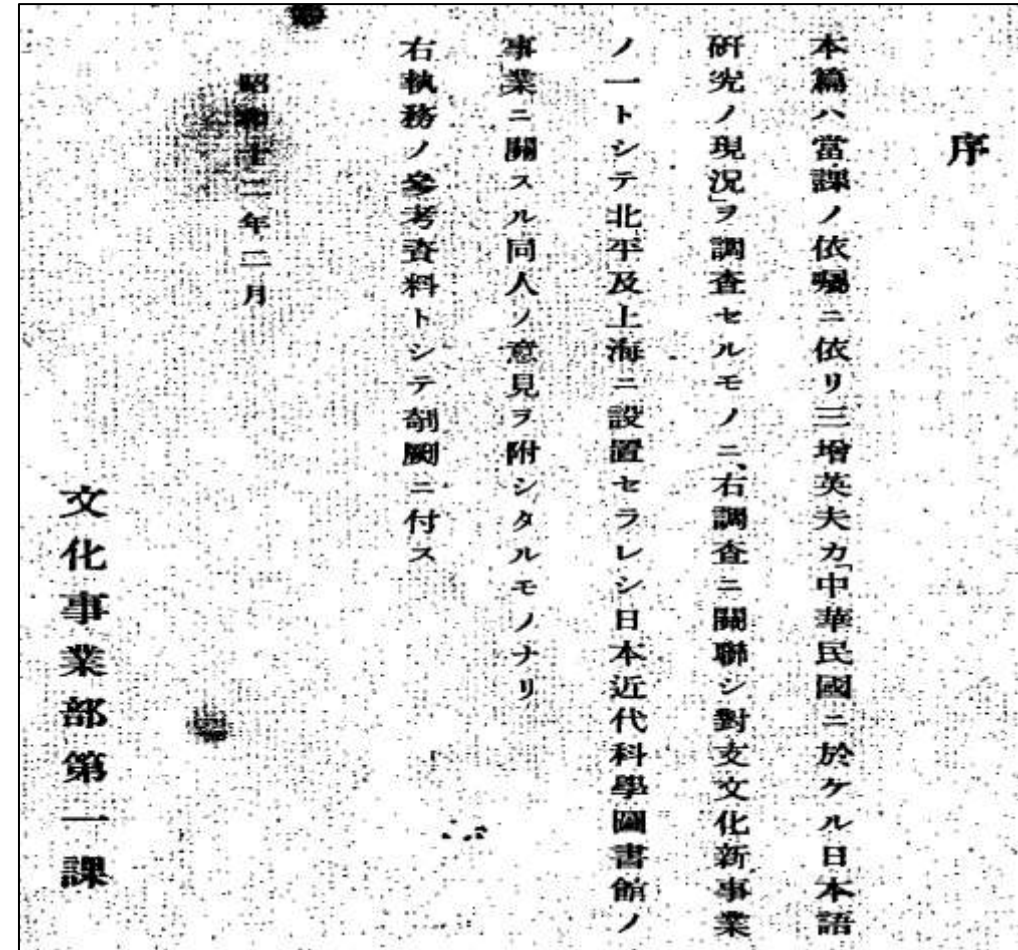
出典：『北京近代科学図書館月報 書滲』第42号（1942年）2ページより

# 北京近代科学図書館の日本語教育事業方針

- 盧溝橋事件以前、北京近代科学図書館の事業方針に関する提言



(出典：JACAR、Ref. B10070618300 第1画像目)



(出典：JACAR、Ref. B10070618300 第2画像目)

# 北京近代科学図書館の日本語教育事業方針

## • 図書館の日本語教育事業の方針に関する三増英夫の提言内容

- 四 館報ヲ発行シ備附圖書及新購入圖書ノ紹介ヲ行フノミナラス、特ニ日本語竝ニ日本事情研究ニ関スル頁ヲ設ケテ指導的論文又ハ情報ヲ掲載シ、一面ニ於テ右研究ニ関スル最モ權威アル機関誌トシテ日本語関係者ニ臨ムコト
- 六 各種ノ催物、例ヘハ日本語週間ヲ設ケテ、日本語書籍展覧会、日本事情紹介ノ映画会、講演会等ヲ主催スル外、随時閉館後ノ閲覧室ヲ使用シテ日本語関係者ニ依ル日支問題座談会其他各種ノ親善的會合ヲ組織シ、希望者ニ對シテハ進ンテ會合ノ席ヲ提供スルコト
- 七 各大学又ハ民間日本語学校ニ於ケル日本語担当教員乃至日本事情研究者ニ對シテハ積極的ニ接觸シ、適當ナル教材ノ紹介、参考書ノ貸與、日本語書籍注文ノ媒介ヲ行フ等諸種ノ便宜ヲ供スルコト、又日本語教授ニ関スル講習会ヲ開催シ教授法ノ改善ニ協力スルコト
- 八 中国側日本語担当教員、留日学生出身者中適當ナルモノヲ選ヒ之ニ日本側語学者等ヲ加ヘテ日本語教科書ノ編纂委員会ヲ組織シ、標準的日本語教科書ノ編纂及出版ヲ行ハシムルコト
- 十 各種ノ催物、會合ノ席ヲ利用シテ日本語関係者間ニ例ヘハ俱樂部ノ如キ恒久的親睦機關ノ樹立ヲ圖リ、漸次之ヲ大衆化セシメ、我カ文化工作ノ外郭機関ニ迄発展成長セシムヘキコト

(出典：JACAR、Ref. B10070618300 第20画像目から第21画像目までより)

# 図書館の日本語講座に関わった中国人日本語教師

名前	略歴など
柯政和	1889年生まれ、日本統治時代の台湾出身、日本留学、戦前は北京師範学校音楽学部で教職に就く。
銭稻孫	1887年生まれ、1927年から清華大学で日本語教師を担当。
洪炎秋	1899年生まれ、日本統治時代の台湾出身で、戦前は北京大学で教職に就く。人人書店を経営し、『英文法比較研究日本語法精解』という日本語教材を作成。
張我軍	1902年生まれ、日本統治時代の台湾出身で、戦前は北京の諸大学で日本語教師を担当し、数種類の日本語教材を編集し、日本語教育界の「著名人士」として評価された。
尤炳圻	1912年生まれ、日本留学、戦前は北京大学で日本語教師を担当。
蘇民生	1896年生まれ、日本高等師範学校卒業、戦前は北京の諸大学で美術関係の科目を担当。
彭鑑	日本留学

級	初	級	中	高	班
第三班	第二班	第一班	第二班	第一班	高級班
竹内好(四)	洪炎秋(四)	尤炳圻(四)	張我軍(四)	蘇民生(四)	銭稻孫(三)
永島榮一郎(四)	竹内好(四)	竹内好(四)	永島榮一郎(三)	永島榮一郎(三)	竹内好(三)
張我軍(二)	尤炳圻(二)	洪炎秋(二)	銭稻孫(一)	銭稻孫(一)	銭稻孫(一)
					張我軍(二)
滿石榮藏(一)	滿石榮藏(一)	滿石榮藏(一)	滿石榮藏(一)	滿石榮藏(一)	滿石榮藏(一)

第三期講座講師担任學科及一週授業時間數

出典：『北京近代科学図書館月報書滲』第6号 9ページより

# 図書館の日本語講座に關与した中国人日本語教師

北京近代科学図書館師範科の科目担当教師と授業時間数

音 樂	體 育	世 界 事 情	日 本 國 情	心 理	教 育	言 語 學	日 本 國 語 學	日 本 文 學 史	日 本 文 化 史	中 國 古 文 選 讀	日 語 教 授 法	文 法 演 習	翻 譯 法	作 文 實 習	古 文 選 讀	譯 讀	習 字	會 話	聽 寫	音 聲 學	修 身	學 科 目
一	一	〇	一	〇	二	二	〇	〇	三	二	〇	二	二	一	〇	五	一	四	一	一	一	前 期 時 間 數 週
一	一	一	〇	二	〇	〇	三	三	〇	二	一	二	二	二	二	二	〇	三	二	〇	一	後 期 時 間 數 週
全	袴 田 克 巳	伊 藤 千 春	滿 石 榮 藏	全	全	全	栗 田 直 躬	全	佐 藤 三 郎	沈 啓 先 (陳 介 白)	全	張 我 軍	尤 炳 圻	稻 垣 春 吉	錢 稻 孫	蘇 民 生	滿 石 榮 藏	伊 藤 千 春	滿 石 榮 藏	永 島 榮 一 郎	山 室 三 良	擔 任 講 師

〔出典…『北京近代科学図書館誌』(1939年)第六号より〕

## 戦前、日本側と張我軍との接触

- 日本外務省と張我軍（1937年4月）

一行中ノ張我軍ヨリ視察旅行終了後下関ニテ一行ト分レ同人單獨ニテ約三週間ニ亘リ東京及び京都ニ於テ言語及び文字教育等調査致度キニ文化事業部ヨリ補助ヲ仰度キ旨願出デテタル處同人ハ北平市政府社会局秘書及冀察政委會秘書ニシテ日本語ニ通シ従来トモ我方ト密接ナル聯絡ヲ保チ将来ノ利用上ニモ此ノ際補助ヲ與フルコト適当ト認メラルル…。

出典：JACAR、Ref. B05015792200、第29画像

（下線は筆者）

- 北京近代科学図書館長の山室三良と張我軍（1936年12月の西安事件の直後）

それでも行くときには心配で、秦徳純（宋哲元の部下で北京市長）の秘書をやっていた張我軍という私の友人がいまして、彼は後に台湾大学教授になり、今はもう亡くなりましたが、それに「ぼくは今日清華大学に行くんだけど、万一の時は何分頼むよ」といいましたら、張さんも「承知した」といって、ついて来てくれたんです。

出典：東京大学教養学部国際関係論研究室編（1980）

『山室三良氏』（インタビュー記録 E-1）21-22ページより  
（下線は筆者）



# 図書館の日本語講座に関与した中国人日本語教師—張我軍

## 教育総署直轄編審会の特約編集審査者（1941時点）

氏名	原籍	職位や学歴など
汪 怡	浙江杭県	教育部国語推行委員会の常務委員
范慶涵	湖北鄂城	日本東京高等工業学校機械科卒業
王同烜	安徽当塗	清朝両江優級師範学校卒業
鮑鑑清	浙 江	北京医学専門学校卒業
武田熙	日 本	興亜院調査官
趙蔭堂	河南巩県	北京大学研究所国学科卒業
盧斯伯	湖南宝慶	北寧路警察訓練所所長、北戴河海浜警察所所長
張我軍	福建南靖	北京大学文學院日本文学系教授
徐小舟	江蘇呉県	奉天協和印刷会社図書主任
宝芥青	河北新海	北京大学教育学部卒業、中国大学講師
楊 謙	北 京	燕京大学歴史学部卒業
笹野堅	日 本	早稲田大学文学部国文科卒業

（『教育総署直轄編審会職員録』1941年版より筆者作成）

## 華北日本語教育研究所常任委員会 （1943年時点）

職名	氏名
所長	王玉泉
常任委員長	藤村作
常任委員	佐藤幹二、古田拓、片岡良一、国府種武、張我軍、陳松齡、山口喜一郎、各省市代表6名

（『華北日本語』第3巻第6号より筆者作成）

図書館の日本語教科書の作成における  
戦前の中国大陸の日本語教科書の影響

---

# 『初級日文模範教科書』・『高級日文模範教科書』について

- 『初級日文模範教科書』の構成

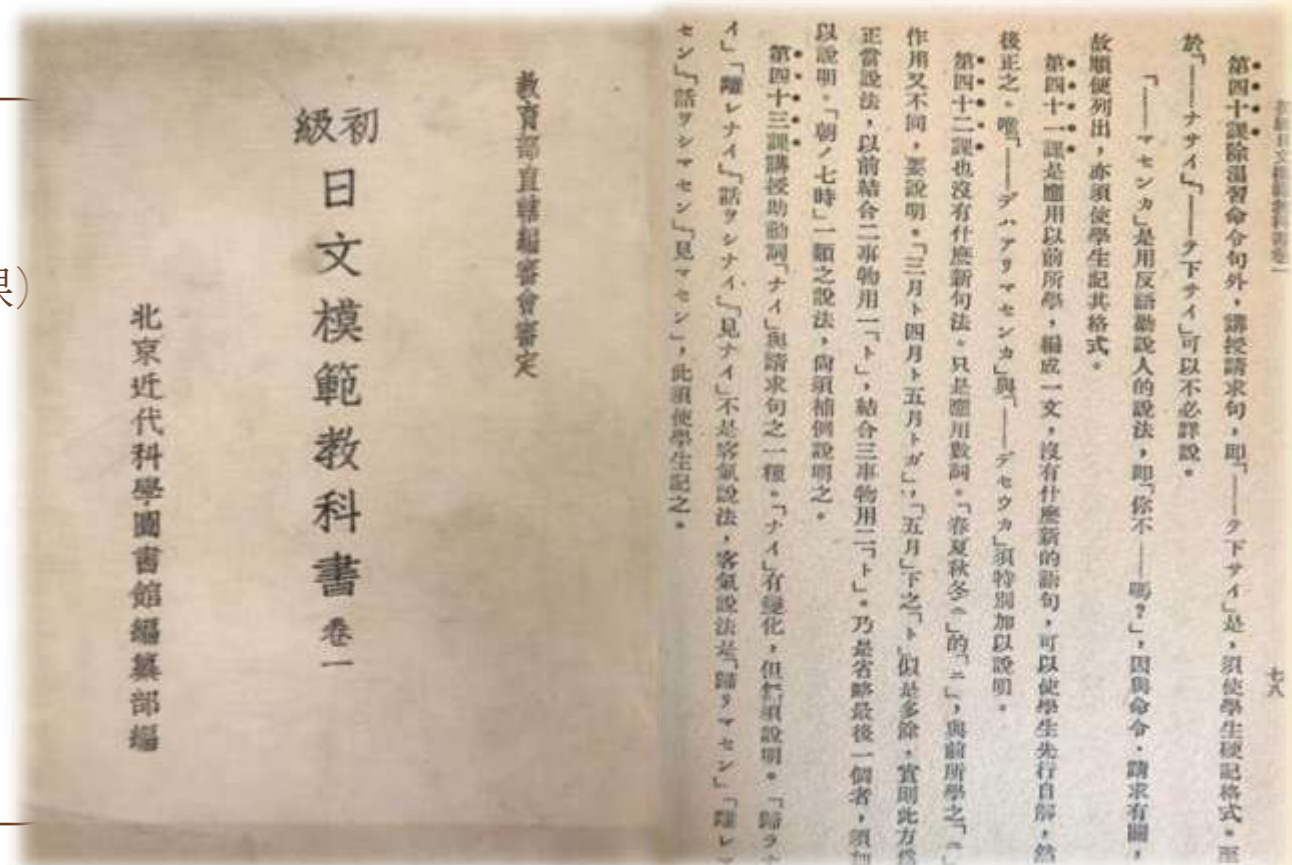
卷1 (全56課)、卷2 (全41課)、卷3 (全29課)

「本文」＋「教授参考」＋「中国語訳」

- 『高級日文模範教科書』の構成

卷1 (全21課) 卷2 (全24課) 卷3 (全24課)

「本文」＋「中国語訳」



『初級日文模範教科書』とその「教授参考」の一部

## 張我軍の編集した日本語学習雑誌と日本語教材について

### • 『日文與日語』雑誌（全3巻） （1934年～1935年）

編集長：張我軍

編集顧問：錢稻孫と周作人

発行所：人人書店（経営者：洪炎秋）

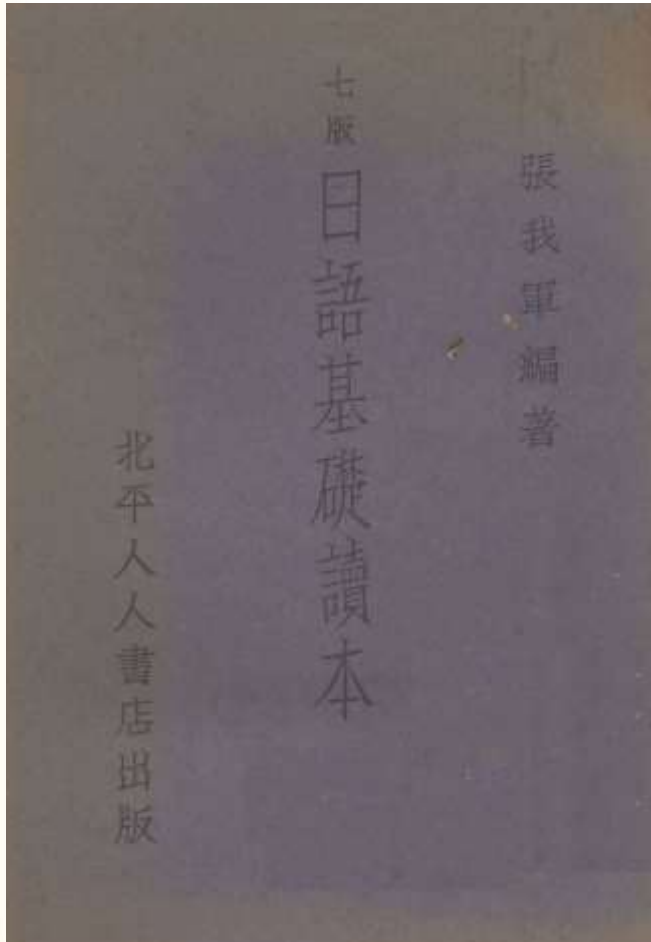
初中上級日本語講座：

「本文」＋「註解」＋「中国語訳」

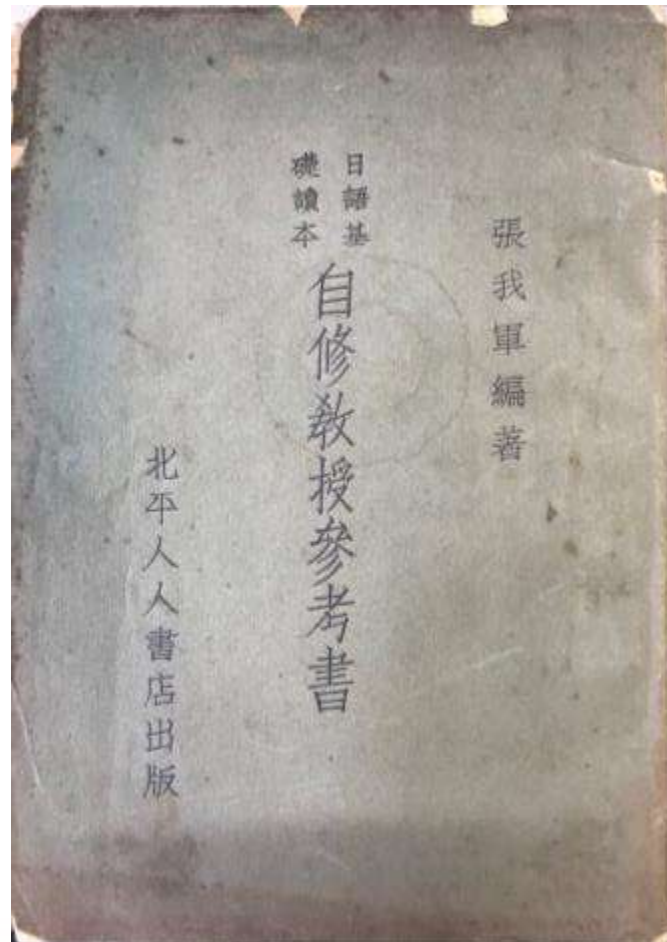
書名	出版社	初版発行年
『日語基礎読本』	人人書店	1931.6
『日本語法十二講』	人文書店	1932.9
『日漢対訳詳解高級日文自修叢書』 （全3種）	人人書店	第1種：1934.3 第2種：1934.9
『現代日本語法大全：分析篇』	人人書店	1934.8
『日語基礎読本自修教授参考書』	同上	1935.1
『現代日本語法大全：運用篇』	同上	1935.3
『高級日文星期講座』（全3冊）	同上	1935.3
『標準日文自修講座』（全5冊）	同上	前期第1冊：1936.6 前期第2冊：1936.7 前期第3冊：1936.8 前期第4冊：1936.9 後期第1冊：1937.6

# 張我軍の日本語教科書の作成理念

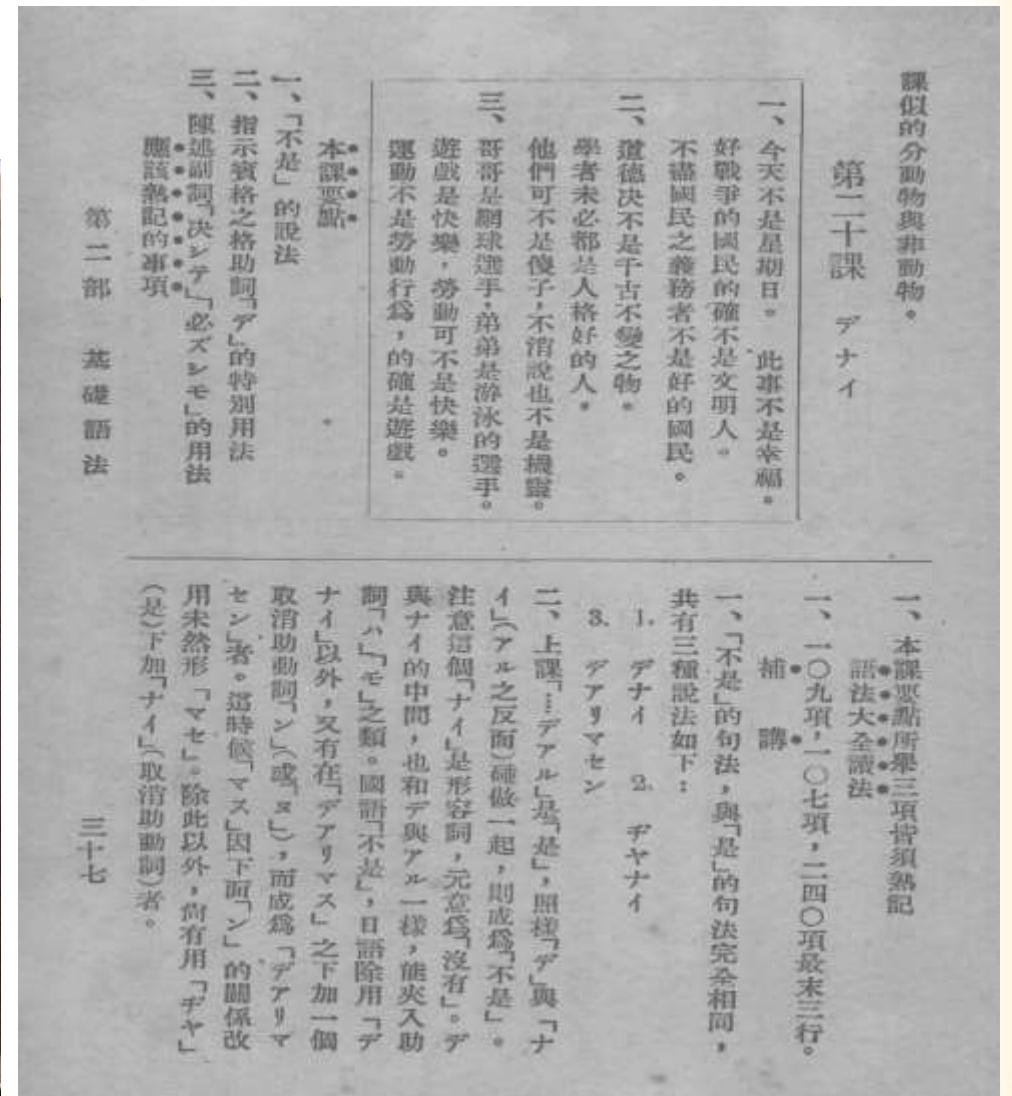
- 「本文」 + 「註解」 + 「中国語訳」



(1931年初版發行)



(1935年初版發行)



『日語基礎讀本自修教授參考書』の内容の一部

# 北京近代科学図書館編日本語教科書と 張我軍の日本語教材の内容が重なる課(1)

北京近代科学図書館の日本語教科書における課名		張我軍の日本語教材における課名	
課名なし	(『初級』巻1、54課)	獅子ト鼠	(『日文與日語』第3巻第4号)
課名なし	(『初級』巻1、55課)		
山の上	(『初級』巻2、6課)	山ノ上	(『日文與日語』第3巻第3号)
考え物一	(『初級』巻2、7課)	考え物	(『日文與日語』第3巻第5号)
考え物二	(『初級』巻2、8課)		
オ月サマ	(『初級』巻2、10課)	オ月サマ	(『日文與日語』第3巻第3号)
蛙一	(『初級』巻2、23課)		
蛙二	(『初級』巻2、24課)	負け嫌ひな蛙	(『日文與日語』第1巻第2号)
蛙三	(『初級』巻2、25課)		
鼠の知恵	(『初級』巻2、32課)	鼠の知恵	(『標準日文自修講座』前期第4期)
山雀の思出	(『初級』巻2、32課)	山雀の思出	(『標準日文自修講座』前期第4期)
雨	(『初級』巻3、9課)	雨	(『標準日文自修講座』前期第4期)
コロンブスの卵	(『初級』巻3、22課)	コロンブスの卵	(『標準日文自修講座』前期第4期)
犬ころ	(『初級』巻3、23課)	犬ころ	(『日文與日語』第2巻第5号)
分業	(『初級』巻3、24課)	分業	(『日文與日語』第2巻第3号)

## 北京近代科学図書館編日本語教科書と 張我軍の日本語教材の内容が重なる課(2)

北京近代科学図書館の日本語教科書における課名	張我軍の日本語教材における課名
鷺 (『初級』巻3、24課)	鷺 (『日文與日語』第2巻第3号)
朝鮮人参 (『初級』巻3、26課)	朝鮮人参 (『日文與日語』第2巻第4号)
動物の色と形 (『初級』巻3、28課)	動物の色 (『日文與日語』第2巻第1号)
灯台守の娘 (『高級』巻1、3課)	灯台守の娘 (『日文與日語』(第2巻第2号))
横浜 (『高級』巻1、4課)	横浜 (『日文與日語』(第2巻第1号))
伝書鳩 (『高級』巻1、5課)	伝書鳩 (『日文與日語』(第2巻第6号))
太陽 (『高級』巻1、7課)	太陽 (『日文與日語』(第3巻第2号))
大阪 (『高級』巻1、8課)	大阪 (『日文與日語』(第2巻第1号))
裁判 (『高級』巻1、9課)	裁判 (『日文與日語』(第3巻第1号))
無言の行 (『高級』巻1、14課)	無言の行 (『標準日文自修講座』前期第4期)
手の働 (『高級』巻1、17課)	手の働 (『日文與日語』(第2巻第3号))
故郷 (『高級』巻1、20課)	故郷 (『標準日文自修講座』後期第4期)
ヨーロッパの旅 (『高級』巻1、22課)	ヨーロッパの旅 (『日文與日語』(第3巻第3号))
商業 (『高級』巻1、25課)	商業 (『標準日文自修講座』前期第4期)
物ノ価 (『高級』巻1、26課)	物ノ価 (『日文與日語』(第2巻第4号))

## 中国語訳における北京近代科学図書館の日本語教科書と 張我軍の日本語教科書との異同

- 手の働（『高級日文模範教科書』巻1、17課）の中国語訳

取、捡、握、拿等等，都是手的**功用**。如其没有手，我们**正不知将如何的**不自由哩。**也许将**不能拿筷子，也不能结腰带，也不能抓痒处，也不能**抚摸**痛处罢。

木匠之建造房屋，瓦匠之涂抹墙壁，舟人之行舟，农夫之耕种田地，都是手的**功用**。又如以画笔**一管**，描画美丽的画，以凿一把雕出漂亮雕刻，使人感动，也是手的**功用**。

- 手の働（『日文與日語』（第2巻第3号）の中国語訳

取、捡、握、拿等，都是手的**作用**。倘若没有手，我们**不知道将怎样**不自由哩。**恐怕也**不能拿筷子，也不能结腰带，也不能抓痒处，也不能**摩擦**痛处罢。

木匠之建造房屋，瓦匠之涂抹墙壁，舟人之行舟，农夫之耕种田地，都是手的**作用**。又如以画笔**一支**，描画美丽的画，以凿一把雕出漂亮的**雕刻**，使人感动，也是手的**作用**。



## 文法説明における北京近代科学図書館の日本語教科書と 張我軍の日本語教科書との異同(1)

- 山の上（『初級日文模範教科書』巻2、第6課）

句の方面においては、第1句は復句の一種であり、複合句と言ひ、上の句を前句と言ひ、下の句を後句と言う。（中略）主語の省略は日本語によく見られる。本文章には例文があり、それを利用して簡単に説明してください。

（原文中国語、筆者日本語訳）（下線は筆者）

- 山ノ上（『日文與日語』第3巻第3号）

本句は2つの句から構成されている。2つ以上の句から構成された句は復文と言う。復句は4種類あり、本句は複合句と言ひ、上の句を前句と言ひ、下の句を後句と言う。日本語の中では、主格の省略が最も多く、中国語にも省略はあるが、日本語ほど多くない。（原文中国語、筆者日本語訳）（下線は筆者）

## 文法説明における北京近代科学図書館の日本語教科書と 張我軍の日本語教科書との異同(2)

- 被動句一（『初級日文模範教科書』巻2、第21課）

那主动者下面所用的助词是「ニ」，又有用「カラ」的。有没有这个主动者「××ニ」，便是在文法上区别「レル」「ラレル」是作为「被」或作为「会」的唯一根据。不过省略语也要注意，如第三句「咬マレマス」省「犬ニ」。

- 被動句「レル」「ラレル」「こそ」（『日文與日語』第1卷第6号）

原来「レル」「ラレル」都有四种意思，我们所以知其为表示「被」之意者，完全是在于这个补语「××ニ」「××カラ」。不过有时因为主动者由于上下文可以知道的时候，常常省而不提示，这是要注意的。

# 北京近代科学図書館の日本語教科書と 張我軍の日本語教科書に反映された日本語教授観の異同

## • 北京近代科学図書館編日本語教科書に反映された日本語教授観

⇒ 会話文などを取り入れ、会話力の向上を図るが、全体的に文法説明・翻訳を中心に行われた。

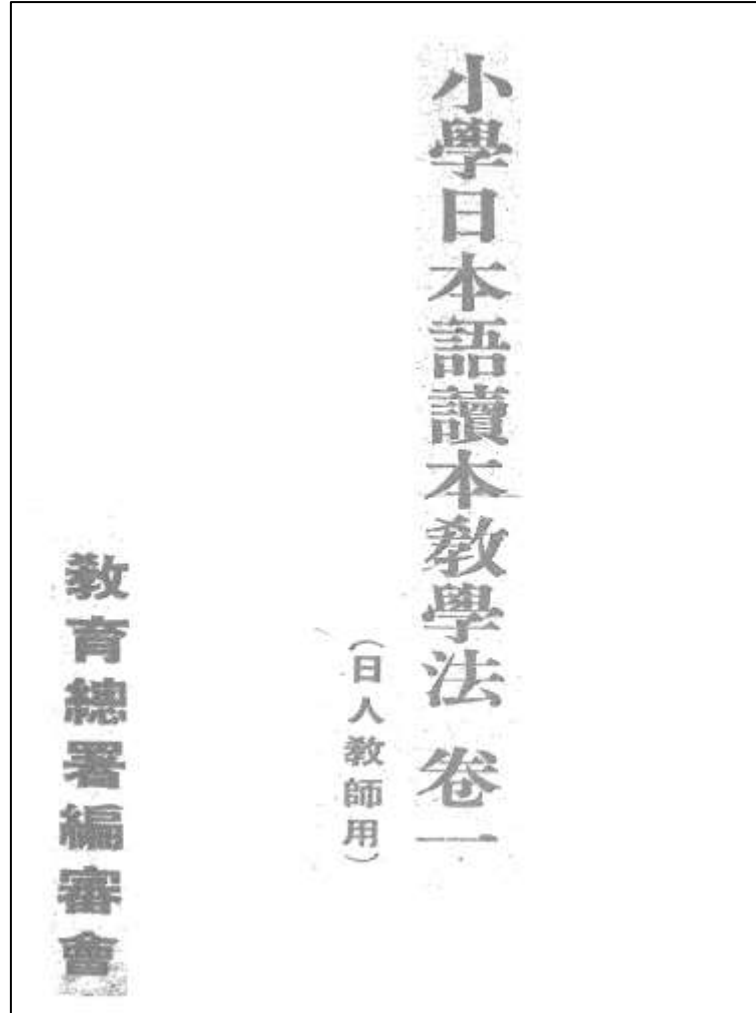
## • 張我軍が提唱した日本語学習法

我が国の学生は日本語を学習する際に、文法より着手すべきである。（中略）各種の文法規則を読本の中に融合させるべきである。読本を通じて文法を学んだら、読本の内容をはっきり理解すると同時に、自然に文法を習得することができる。文法を学ぶ時には、分析と運用を同時に学ぶべきであり、特に文の構造における中国語との異同に注意しなければならない。そして、読本の内容を作成する時に、実用的なもので文法の難易度と合わせた材料を選ぶべきである。最後に、各種の構文法、各種の特別なPhraseやIdeam（筆者：ママ）を随時取り入れなければならない。学生はこれらの構文法やPhrase 及びIdeam（筆者：ママ）に対し、各種の単語を学ぶように、暗唱しなければならない。（『日文與日語』1巻2号（1934年）より）  
（原文中国語、筆者日本語訳）（下線は筆者）

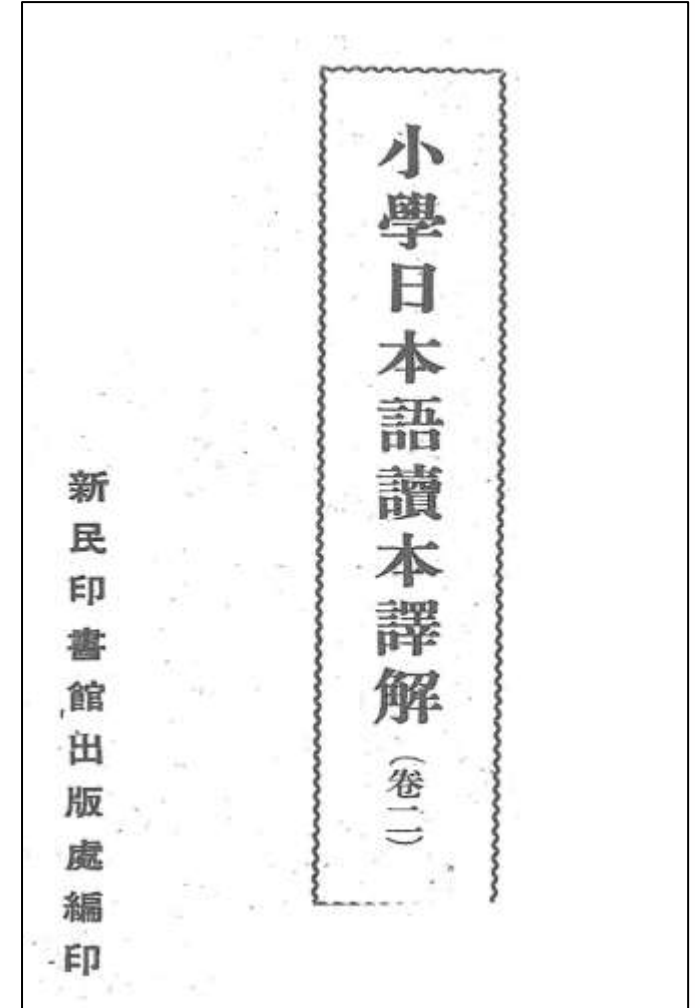
# 戦時中の華北地方における2つの教授法の併行



卷2：1939年初版發行



卷1：1942年初版發行



卷2：1939年初版發行

## 戦時中の華北地方における2つの教授法の併行

**原文：**我是担任本科的日语课程，这一课程有三个教授，一个叫山口喜一郎，一个是日野成美，日野就是密告我的教授。他们的教授法称「直接教授法」，我的教授法称「文法教授法」，我主张幼学儿童可以适用直接教授法，成人学生应该采用文法教授法，为此我的意见和他们不合。学生们不但喜欢听我的讲解，同时也欢迎我上课。

— 『張深切全集』 卷2、85ページより

**筆者日本語訳：**私は本科の日本語課程を担当し、この課程を担当した教授は全部で3人で、1人は山口喜一郎と言い、1人は日野成美と言います。日野は私のことを密告した教授です。彼らの教授法は「直接教授法」と言い、私の教授法は「文法教授法」と言います。私は児童に教える場合は直接教授法が適しており、大人の学生に対しては文法教授法を採用すべきだと主張しましたが、私の考えと彼らとでは考えが一致しませんでした。学生たちは私による解釈が好きだけでなく、私が授業をすることを歓迎してくれます。

# 北京近代科学図書館の日本語事業と 張我軍の日本語教育の目的との違い

## • 張我軍の日本語教育の目的

日本は我が国の近隣で、我が国との文化交流において2000年以上の歴史を持ち、また日本とその文化の発展経験には参考になるものが多い。そのため、日本が親善の意を示してくれれば、彼らの言語文字を研究する必要があることは言うまでもない。もし我が国を侵略すれば、より一層研究する必要があり、その言語文字を通してその国情を研究し、抵抗の準備をする。

—『日文與日語』（1934）創刊号より  
（原文中国語、筆者日本語訳）（下線は筆者）

## • 北京近代科学図書館の日本語事業の目的

日本図書館特ニ日語乃至日本事情ノ研究に向ヒツツアル分子ヲ直接対象トシノ一般的任務ハ中国知識層、其ノ性質ノ如何ニ拘ラス対日関心ノ精神的表象ト認ムヘキ一切ヲ把ヘ、迷蒙ヲ開キ、正当ナル軌道ニ導キ、之ヲ我ガ思想的影響下ニ獲得スルコト、要ハ学術的成果ノ単ナル媒介体タルニ止マラス、所謂思想戦ニ於ケル一拠点タルニアリ。

—JACAR、Ref. B10070618300 第20画像目（1937年2月）より  
（下線は筆者）

# まとめ

- 北京近代科学図書館編日本語教科書の作成背景

1930年代の中国大陸の日本語学習ブーム

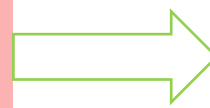


北京近代科学図書館の日本語教育事業方針に関する提言

(中国人日本語教師に接触し、標準的日本語教科書の作成に関与させることに言及)

- 北京近代科学図書館編日本語教科書の作成における張我軍の影響

張我軍の教科書作成理念  
「本文」＋「註解」＋「中国語訳」



北京近代科学図書館の日本語教科書  
初級：「本文」＋「教授参考」＋「中国語訳」  
高級：「本文」＋「中国語訳」

日本語教育の目的：  
日本の学術文化を学ぶ  
一種の抗日の武器として

日本語教育事業の目的：  
国策遂行ための思想戦の一拠点

## 今後の課題

- ① 教科書分析をさらに深く行う。
- ② 張我軍以外到北京近代科学図書館の教科書作成に影響を与えた人物がいるかどうか探る。
- ③ 戦時中の華北地方の日本語教育は、戦前の中国大陆の日本語教育とどのような関連があるのか。



# 主要参考文献

## ➤ 日本語参考文献

川上尚恵（2006）「占領下の中国華北地方における日本語学校—北京近代科学図書館附属日本語学校と新民教育館附属日本語学校」『植民地教育史研究年報』（9）、pp. 103—122

川上尚恵（2010）「北京近代科学図書館編纂日本語教科書分析からみた占領初期の中国華北地方における日本語教育の一側面」『日本語教育』146号、pp. 144—158

小黒浩司（1987a）「北京近代科学図書館史の研究Ⅰ」『図書館学会年報』33（3）、pp. 97—110

小黒浩司（1987b）「北京近代科学図書館史の研究Ⅱ」『図書館学会年報』33（4）、pp. 157—172

東京大学教養学部国際関係論研究室編（1980）『山室三良氏』（インタビュー記録 E-1）株式会社教育社

田中寛（2015）『戦時期における日本語・日本語教育論の諸相：日本言語文化政策論序説』ひつじ書房

北京近代科学図書館館（1939）『北京近代科学図書館概況』

北京近代科学図書館館（1939）『北京近代科学図書館栞』第6号

北京近代科学図書館（1939）『北京近代科学図書館月報 書滲』第6号

## 主要参考文献

北京近代科学図書館（1942）『北京近代科学図書館月報 書滲』第42号

JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. B10070618200、三増英夫調中華民國ニ於ケル日本語研究ノ現況（附. 日本近代科学図書館論/1937年）（文化\_37）（外務省外交史料館）

JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. B10070616400、（薄冊）支那ニ於ケル日本語教育状況/1938年（文化\_28）（外務省外交史料館）

JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. B05015792200、満支人本邦視察旅行関係雑件/便宜供与関係第九卷（外務省外交史料館）

### ➤ 中国語参考文献

秦賢次（1987）「台湾新文学運動的奠基者—張我軍」張光正編『近觀張我軍』台海出版社、2002年、pp. 332—351

張我軍編（1934）『日文與日語』（第1卷）北平人人書店

張我軍編（1935）『日文與日語』（第2卷）北平人人書店

張我軍編（1935）『日文與日語』（第3卷）北平人人書店

陳芳明等主編（1998）『張深切全集』卷2、文經社

# 主要參考文獻

## ➤ 參考教科書

張我軍 (1934) 『日語基礎讀本』 (4版) 北平人人書店

張我軍 (1935) 『日語基礎讀本自修教授參考書』 北平人人書店

北京近代科学図書館編纂部 (1939) 『初級日文模範教科書』 (卷1) (8版)

北京近代科学図書館編纂部 (1939) 『初級日文模範教科書』 (卷2) (4版)

北京近代科学図書館編纂部 (1938) 『初級日文模範教科書』 (卷3) (再版)

北京近代科学図書館編纂部 (1938) 『高級日文模範教科書』 (卷1)

北京近代科学図書館編纂部 (1938) 『高級日文模範教科書』 (卷2)

北京近代科学図書館編纂部 (1938) 『高級日文模範教科書』 (卷3)

ご清聴

ありがとう

ございました。